

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	千葉市大宮学園児童発達支援センター（たけのこルーム 肢体不自由児クラス）		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 23日		～ 令和6年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 9人
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日		～ 令和7年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数) 6人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園により児童への理解が深まり、保護者の児童への関わり方など保護者支援に繋がる。	療育活動を通して、自宅でも出来る遊びや児童への関わり方が伝わるよう努めている。	一人ひとりに合った療育内容や集団に合った療育内容を各専門職と考える。また季節の行事の要素を取り入れた療育を行い、療育内容を充実させる。
2	各専門職がいることで、児童や保護者支援につながりやすい。	児童一人ひとりにあった個別支援や保護者勉強会を実施している。	各専門職が、内外部の研修に積極的に参加し知識や技術を学び質の向上を目指す。
3	遊具や教材、園庭が広くハード面等が充実している。	一人ひとりに合った教材など様々な教材と遊具を取り入れ、遊びの幅が広がるようにしている。	玩具や教材が古くなってきている。時代に合った教材を少しずつ導入している。今後も新しい教材を取り入れながら、児童が飽きない療育を行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	親子通園であるものの、兄弟姉妹預かり事業が十分に機能していないため、登園日数が減ってしまう利用者がある。	・ファミリーサポートの利用に料金が発生するため、利用をためらう保護者がいる。 ・兄弟姉妹預かりボランティアを募集しても人数が集まりにくい。 ・ボランティアの都合と行事日程が合わず、安定した確保が難しい。	・運営方針や各マニュアルに基づき、兄弟姉妹預かり事業の仕組みや安全面について書面で丁寧に説明する。 ・ホームページやボランティアセンター等を活用し、兄弟姉妹預かり事業のボランティア募集をより広く周知していく。 ・預かり方法や運用体制について職員間で協議・検討を進める。
2	アプリやメールによるお便り・アンケート等の送信はできている一方で、保護者からの出欠席連絡などの受信機能が整っていない。	・出欠席連絡をアプリやメールで受け付ける場合、受付方法が複雑化し、職員側の確認・整理作業が煩雑になる可能性が高い。 ・運用ルールやフローの整備が必要であり、現状の体制では即時導入が難しい。	・運用面の課題整理と、導入可否の検討を開始する。 (例：受付方法、確認フロー、誤送信防止、職員の負担、既存システムとの整合性など)
3	高齢、障害、児童など他分野への異動があるため、各専門職のキャリアが築きにくい。	法人内での同職種による引継ぎや研修、日々の療育の中で研修などで学んだことを活かせるように行っている。	他分野から異動の際は、引継ぎや研修等を期間などを決め行う。また、異動職員の精神的なサポートをする。